

初代は女性校長のパイオニア

2018年4月14日（日）

四月も半ばになりました。昨日は、前任校の離任式に臨み、送られる立場であることをしみじみ感じました。

さて、私は昭和53年に本校を卒業しました。卒業生の校長としては初めてになります。43年前に入学して3年間を過ごす中で、教員になる決意をしたのはこの学舎でした。そして、昭和62年には講師として下館二高に勤務しました。本当に懐かしくて思い出多い母校です。

本校の沿革を確認するため、資料を見ていましたところ、一つの発見をしました。卒業生としての校長は初めてと同時に、女性校長としても初めてと思っていましたが、私立時代の初代校長が女性だったのです。



女子教育の必要性を痛感していた創立者の大日方直廉は、明治31年私財を投じて自宅の一部（養蚕をしていた平屋建ての家）を改造し、私立下館裁縫女学校を設立しました。そして、東京から招聘された校長が逸見とも氏です。校長といっても全て一人でやらなければならなかったようですが、女性校長のパイオニアですし、誇りに思います。

<参考>

樋口一葉が「たけくらべ」を書いたのが明治28年、津田梅子が女子英学塾を創立したのが明治33年です。また、日本女子大が開校したのも明治33年で、翌34年与謝野晶子の「みだれ髪」が刊行されました。